

第3回東青地区統合校開設準備委員会における主な意見

1 校名案候補への意見募集及び絞り込み方法について

【各委員からの意見】

[校名案候補への意見募集]

- 意見を提出した方が、提出した意見の取扱いや、校名決定までのプロセスについて理解できるように配慮し、意見募集を実施してもらいたい。

[校名案の絞り込み方法]

- 各委員が3案推薦して協議により絞り込む方法が良い。
- 各委員の思いはそれぞれ異なり、なかなかまとまりにくいと思われるため、投票により絞り込む方法が良い。
- 事前に意見募集の結果を確認できるのであれば、第4回委員会までに、各委員が提出された意見を踏まえてどの校名案が良いかを考えることができると思うので、投票が良い。
- 意見の多寡により決めるものではないとはいえ、意見募集の結果を確認すれば意見が少数であるかどうか分かり、選びやすくなるため、投票すれば決まるのではないか。

【第3回開設準備委員会におけるまとめ】

[校名案候補への意見募集]

- 3名の委員から提案された校名案候補のうち、「青森西浪（せいろう）高等学校」を除いた12案について、意見を募集する対象を限定せずに実施する。

[校名案の絞り込み方法]

- 意見募集の結果を参考に各委員が3案選び、合計投票数をもって校名案を絞り込む方法とする。

2 校訓・校章・校歌の方向性について

【各委員からの意見】

- どの学校においても「こういう人財を育てたい」という思いがあつて校訓等がある。両校の校訓は同じことを表しているので、そのまま引き継ぐのが良い。
- 校訓はあるべきだが、実際に生徒を育てる立場の先生方の意見が大事であるため、本委員会において議論するのではなく、先生方にまとめてもらえば良い。両校の校訓を引き継ぐと決めることもできない。
- 生徒には育むべき資質・能力を、教員には教育活動実践の方向性を示すことにつながるため、校訓や教育目標は必要である。令和8年度の夏頃には求める生徒像を各中学校に示す必要があり、しかるべきタイミングで作る必要がある。
- 校名が決まれば、その校名をイメージできるような校章の考え方も出てくると思うが、現時点で協議する話ではない。

- 校名が青森西高校になるのであれば、校歌は現在の青森西高校のものを引き継いでも良いかもしない。ただし、校名が分からないので現時点では議論はできない。校名が変わり、新たに制作するのであれば、大変素晴らしいと評価されている現在の青森西高校の校歌に匹敵するかそれ以上の校歌を制作してもらいたい。
- 本委員会で校訓や校章の方向性を出す必要は無い。校名も決定しておらず、統合校のビジョンがなければこれらの検討は難しい。
- 校名が決まった段階で、開設準備室において、新しいものを制定するのか、統合対象校のものを引き継ぐのか、という方向性も決めてもらうのが良い。現段階の本委員会では方向性を示すこともできない。
- 校名が決まらない限り検討できないとすれば、開設準備室における業務が厳しくなると思われ、ある程度の方向性は示しながら引き継ぐ方が良い。
- 両校の先生方の負担が増えるため、現時点で作業部会において検討するよう決定するのではなく、県教育委員会と両校の校長とで相談しながら、必要があれば作業部会における検討を考えるという形で良い。
- 校名が決まらなければ校訓等の方向性が決められず、それらの検討は開設準備室が設置される令和8年度からとなる。現段階では、今後このようなものを決めなければならないという状況を共有するのみで良い。今、無責任に決定するのも不安であり、来年度以降の校長や学校に携わる人たちがどのような思いで担っていくのかということを、教職員も一体となって考えていかなければならない。

【開設準備委員会としての意見（まとめ）】

- 校名が決定していない現段階では校訓等の方向性について協議することはできないため、校訓等を検討する必要があるということを共有することとし、今後、開設準備室等において検討を進めてもらいたい。

3 部活動の方向性について

【各委員からの意見】

- 浪岡高校に設置されている部活動のうち、青森西高校に設置されていないのが家庭科部であるが、青森西高校の家庭科教員に確認したところ、現在は委員会活動として行っているものの、部活動でも対応可能とのことであった。また、青森西高校で行っているおもてなし隊については、現在でも浪岡高校の生徒会役員を中心に一緒に活動しているため、統合校においても活動できると考えている。

【開設準備委員会としての意見（まとめ）】

- 現在両校に設置されている部活動を統合校においても引き継いでもらいたい。

4 統合対象校間の連携の方向性について

【各委員からの意見】

- 統合後も含めて青森市市民協働推進課と情報交換するなど、地域との連携について確認してはどうか。
- 生徒の移動に係る課題を解消しなければ両校の連携は難しい。令和8年度生が最後の入学生で、年々生徒が減っていくことになるため、両校や統合校の連携は年々大事になる。生徒が活動しやすいように、学校や県教育委員会において、移動に係る経費補助の予算化などを検討してもらいたい。
- 青森西高校や統合校にとって、浪岡地区で行われる北畠まつりなどのイベントに生徒が参加したり、浪岡の小・中学校と連携したりするなど、活動を拡大させていくことが存在価値を示していくことにつながる。

【開設準備委員会としての意見（まとめ）】

- 本委員会における意見を踏まえながら、両校で情報交換しつつ連携を深めてもらいたい。

5 記念物品の展示の方向性について

【各委員からの意見】

- 両校の歴史などが見て取れる展示にできれば良い。また、統合後に限らず、文化祭等で両校の思い出などを紹介していくことも大切である。
- 浪岡地区に統合校のサテライト施設ができるようであれば、その施設にも記念物品を展示するということも考えられる。

【開設準備委員会としての意見（まとめ）】

- 本委員会における意見を踏まえながら、開設準備室で検討を進めてもらいたい。

6 事務の引継ぎの方向性について

【開設準備委員会としての意見】

- 統合対象校、統合校及び県教育委員会が連携を図りながら、事務手続を進めてもらいたい。